

もったいない心を大切に！

No.22

環境タイムズとやま

木
都
名
屋
組
合

富山県環境保全協同組合

発行所/富山県富山市野々上字地送 6 番地 TEL(076)434-2802 FAX(076)434-4440



富山県環境保全協同組合創立50周年記念 平成22年7月23日 於 ANAクラウンプラザホテル富山

ご挨拶

富山県環境保全協同組合 理事長 上田勝朗

梅雨明けと共に猛暑が訪れ、久しぶりに夏らしい夏を過ごしました。日頃より当協同組合の運営にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、4月28日の第24回通常総会において理事長に選任されました。想定外の就任であったため、役員の皆さんにはそのまま留任していただきました。これまで多くの事業に関わってきましたが、立山環境美化登山、行政懇談会、料金調査や原価計算、このタイムズの編集など楽しく自由にやらせてもらいました。

昭和37年に富山県汲取業同業組合設立以来50年が過ぎました。清掃協会、環境保全協会、そして現在の環境保全協同組合と名称変更しながら組織力を高め、平成2年には会館が建設されました。各委員会の活動に加え、青年部会も設立され組織の活性化と役員の若返りに大きな影響があったと思います。私も昭和51年に富山県環境保全協会に参加して、多くの先輩にたくさんの経験をさせてをもらい育てていただいたことを感謝しています。本年6月には青年部会の新体制もでき、また新しいエネルギーが活発に動き始めることを楽しみにしています。

50年という節目を迎へ、7月23日には県生活環境文化部の新川部長、日本環境保全協会の宇田川会長を始めとして多くのご来賓をお迎えして、素晴らしい式典と祝賀会を開かせていただきました。今後も協同組合として第一に組合員の業務安定を考えながら一般廃棄物収集運搬業の委託業者としての法的地位を守り、業を通じて地域社会の環境保全に貢献してまいりたいと考えています。まだまだ私達は、学びながらよく考え、知恵を出し、汗をかき、勇気を持って行動していくことが大切です。私達、環境保全協同組合がやれること、やらなくてはならないことがたくさんあると思います。これまでの経験とネットワークを生かして、新しい富山県環境保全協同組合としてさらに団結し、行政や関連団体と連携しながら諸問題に取り組んでまいります。

富山県環境保全協同組合 平成22年度第24回通常総会 《清掃協会・環境保全協会から50回目》

富山県環境保全協同組合の平成22年度通常総会を、4月28日(水)午後2時より組合会館で開催した。専務理事島正己が開会を宣し、議長を選任の結果、長田聖真氏が選任された。

平成21年度事業報告、収支決算報告及び任期満了に伴う役員改選、平成22年度事業計画(案)、収支予算(案)について審議し異議なく承認された。

- 《議案》 第1号議案 平成21年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成21年度収支決算承認の件(監査報告)
- 第3号議案 役員改選について
- 第4号議案 平成22年度事業計画(案)承認の件
- 第5号議案 平成22年度収支予算(案)承認の件
- その他

《平成22年度事業計画》

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

本年度は、昨年度からの継続事項を重点に事業計画を進め、更に協同組合員相互の繁栄と業務の安定化を図りたい。

- ①廃棄物の処理及び清掃各業務の委託・許可、営業既得権益の確保に邁進する。
- ②国や県、市町村が行う下水道整備年次計画に伴って生ずる「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」に基づく代替業務等営業補償獲得や金銭補償などに総力を集中し、関係機関に対し強力な陳情、要請要望活動を進める。
- ③市町村の固有事務であるし尿収集運搬業務の実態を訴え、相互連携の中で法律を順守し、適正料金への値上げ運動を勢力的に進めていく。
- ④浄化槽の保守点検及び清掃技術の向上のため、講習会及び広報と啓蒙活動の実施や優良協会及び事業所の視察、又、業界新情報の収集等業務体系の前進拡大を期す。
- ⑤啓蒙が必要と考える環境問題について、広く理解してもらうことと組合の活動や組合員の事業の認知度を高めるために、ホームページを充実させ情報を発信する。
- ⑥共同購入事業の円滑な推進を図るため、組合員の取り扱う消耗資材の共同購入を行う。
- ⑦交通安全、労働災害等事故の防止のための労働安全衛生事業の推進を図る。
- ⑧周囲の諸情勢認識の中で、組合員相互の団結と融和で組織の強化に務める。
- ⑨一般廃棄物、産業廃棄物の適正処理処分及びリサイクルを図り、地域の環境保全や循環社会の構築に寄与する。
- ⑩地球温暖化の進行を抑えるために、組織的に温暖化防止対策に取り組む。
- ⑪行政機関及び関係諸団体との連携の強化。
- ⑫各所属団体の表彰に関して積極的に推進する。
- ⑬創立50周年記念事業を行う。

以上



新理事長の挨拶



組織図及び役員・委員名簿



◎委員長 ○副委員長 (H.19.6.11 廃棄物特別委員会 設置)

日本環境保全協会 平成22年度通常総会

日本環境保全協会（宇田川育男会長）は、6月3日(木)、東京・千代田区のホテルグランドパレスで平成22年度通常総会を盛大に開催し、新年度事業計画など全議案を満場一致で承認可決した。組織の一層の連携強化を図り、更なる事業の確保・拡充へ全会一丸となって邁進する方針を打ち固めた。

☆富山県環境保全協同組合 出席者（9名）

| | | | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| (株)黒東アメニティ公社 | 上田 勝朗 | (株)アムテック | 岩上 吉弘 |
| (株)魚津清掃公社 | 廣瀬 敏雄 | (株)高岡市衛生公社 | 中條 忠雄 |
| (株)魚津清掃公社 | 廣瀬 和夫 | (有)クリーンアクト砺波 | 原野 久夫 |
| (株)公生社 | 廣瀬 淳 | 組合事務局 | 松田 繁子 |
| (株)アムテック | 島 正己 | | |

☆当組合の受賞の方々

〔優良事業従事者表彰（20年以上）〕 2名

| | |
|------------|---------|
| (株)高岡市衛生公社 | 本田 千幸 氏 |
| (株)高岡市衛生公社 | 山田 和彦 氏 |

〔優良事業従事者表彰（15年以上）〕 1名

| | |
|------------|---------|
| (株)高岡市衛生公社 | 加藤 一之 氏 |
|------------|---------|

〔優良事業従事者表彰（10年以上）〕 3名

| | |
|--------------|---------|
| (株)黒東アメニティ公社 | 提谷 亘 氏 |
| (株)黒東アメニティ公社 | 村井健太郎 氏 |
| (株)高岡市衛生公社 | 五十嵐稔弘 氏 |

- | | | |
|------|-------|-------------------------|
| 《議事》 | 第1号議案 | 平成21年度会務報告承認について |
| | 第2号議案 | 平成21年度歳入歳出決算承認について |
| | 第3号議案 | 会長並びに監事選出について |
| | 第4号議案 | 平成22年度事業方針並びに事業計画決定について |
| | 第5号議案 | 平成22年度歳入歳出予算決定について |
| | 第6号議案 | 決議案採択について |

特別講演会

◆演題：「廃棄物・リサイクル行政の動向について」

◆講師：環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長
廃棄物対策課長 徳田 博保 氏



平成22年度通常総会決議

1. 廃棄物適正処理・安全安心確保を根本理念に事業発展・開拓・拡充！
2. 一般廃棄物処理業者の積極・的確なリサイクル事業対応・拡充！
3. 廃棄物処理法遵守徹底！新規委託・許可・入札導入阻止！
4. 合特法適用推進・転換事業獲得！経営安全化に全力傾注！
5. 凈化槽普及促進！適正清掃・保守点検・検査体制の確立！
6. 不況に抗して磐石の環境保全企業集団へ会員組織連携強化！

以上6項目を平成22年度の重点施策として、全会員一致団結のもと、総力をもって強力推進を図り、実現を期することを本通常総会は、満場一致をもって決議する。

平成22年6月3日

日本環境保全協会 平成22年度通常総会



前環境大臣 小池百合子氏



参議院副議長 山東昭子氏



宇田川育男会長の挨拶



元特命担当大臣 高市早苗氏



環境省 大臣官房長 南川秀樹氏

「北陸環境保全協会全体会議」開催

- ◆開催日：平成21年9月7日（月）
- ◆会場：砺波ロイヤルホテル
- ◆会議：議題 ①平成20年度会務報告並びに収支決算報告
②各県の現状報告
その他
- ◆講演会：「一般廃棄物処理業を取り巻く諸情勢について」
講師 日本環境保全協会 専務理事 阿久津民和 氏
- ◆受賞：功労会員表彰 富山県受賞者（2名）
(株)アムテック 専務取締役 島 正己 氏
(有)クリーンアクト砺波 専務取締役 原野 昭夫 氏
- ◆出席人数：43名（石川8名・福井16名・富山19名）



全体会議



受賞者の皆様

北陸環境保全協会 親善ゴルフコンペ

- ◆開催日：平成21年9月8日（火）
- ◆開催場所：高岡カントリー倶楽部
- ◆優勝者：島 小一 氏（富山県）
- ◆参加人数：21名



「企業の仕組みづくりと浄化槽企業の新しい環境ビジネスとは」セミナー開催

◆開催日：平成21年11月17日（水）午前10時30分～午後4時

◆会場：富山県環境保全協同組合会館1階会議室

◆企画：開発委員会

◆講師：株式会社総合研究所 環境ビジネスコンサルティンググループ チームリーダー 黒川 智玄 氏
〃 〃 〃 〃 金子 裕人 氏

◆受講人数：34名（組合員13名・社員21名）

◆助成：平成21年度富山県中小企業団体中央会助成事業の適用を受ける。

【セミナー内容】

第Ⅰ講座：絶対に抑えておくべき浄化槽業界の現状と目指すべき企業モデル

第Ⅱ講座：従業員のやる気を高める仕組み作り

～人材育成と採用・組織強化の取り組み事例公開～

第Ⅲ講座：浄化槽企業だからこそ出来る新しい環境ビジネスとその進め方

第四講座：具体的なアクションプランの落とし込み



中條理事長の挨拶



チームリーダー 黒川智玄 氏

「出前県庁 しごと談義」

◆日時：平成21年10月20日（火）午後2時～4時

◆会場：富山県環境保全協同組合 1階会議室

◆企画：開発委員会

◆テーマ：「新型インフルエンザ対策について」

講師 高岡厚生センター射水支所 衛生課長 溝口豊明 氏

「レジ袋削減から始める意義 ～廃棄物行政の動向～」

講師 富山県生活環境文化部環境政策課 廃棄物対策主査 藤谷亮一 氏

◆出席人数：15名



溝口豊明 氏



藤谷亮一 氏

富山県環境保全協同組合創立50周年 記念式典及び記念祝賀会

◆開催日：平成22年7月23日(金)

◆会場：ANAクラウンプラザホテル 3階「鳳の間」

◆出席人数：53名（ご来賓11名・組合員25名・元組合員1名・青年部会特別会員8名

功労従業員表彰受賞各社代表者6名・事務局1名・(社)富山県浄化槽協会1名）

| | |
|-----------------|--------------|
| ◆ご来賓：富山県生活環境文化部 | 部長 新川 稔 氏 |
| 富山県生活環境文化部環境政策課 | 課長 新庄 幹夫 氏 |
| 日本環境保全協会 | 会長 宇田川育男 氏 |
| 日本環境保全協会 | 総務部長 曾根川紀子 氏 |
| (財)日本環境整備教育センター | 理事長 入山 文郎 氏 |
| (財)日本環境整備教育センター | 理事 塩澤 宏和 氏 |
| 石川県廃棄物協同組合 | 理事長 上村 眞吾 氏 |
| 福井県環境保全協会 | 会長 松宮 成允 氏 |
| (財)富山県浄化槽協会 | 専務理事 油本 幸夫 氏 |
| (財)とやま環境財団 | 専務理事 津田 伸也 氏 |
| 富山県中小企業団体中央会 | 事務局長 北河 隆志 氏 |

創立50周年記念式典によせて

専務理事 島 正己

平成22年7月23日ANAクラウンプラザホテル富山に於いて、創立50周年記念式典及び記念祝賀会が富山県生活環境部長新川稔様はじめ県内外からご来賓をお招きして盛大に開催されました。

式典では、ご来賓の方々より心温まる祝辞を頂き50年の歴史の重みをかみしめました。

思い起こしますと、戦後の我が国は荒廃の中から立ち上がり、驚異的な経済成長を遂げ国民の生活水準は大きく向上しました。公衆衛生の面でも長足の進歩を示したのです。

しかし、高度成長は反面人間を取り巻く環境を著しく破壊しました。公害問題や交通災害、更には精神衛生に至る諸問題などが深刻化する中で、いよいよ公衆衛生は、質・量ともにその真意を問われる分野として注目を集めるところであります。50周年を契機にして、ここまで多大なご努力、ご労苦頂いた先輩各位に深く感謝申し上げますと共に、関係機関の皆様にはこれからも、公衆衛生の向上進歩のため、さらなるご指導ご鞭撻賜りますよう願うものであります。





理事長
上田勝朗



富山県生活環境文化部長
新川 稔様



日本環境保全協会 会長
宇田川 育男様



財日本環境整備教育センター理事長
入山文郎様

【功労組合員表彰受賞者 11名】

| 会社名 | 役職名 | 氏名 | 会社名 | 役職名 | 氏名 |
|-------------|---------|--------|------------|---------|--------|
| 株高岡市衛生公社 | 取締役会長 | 島 統 | ㈲井波庄川衛生工業 | 代表取締役会長 | 藤永 寅夫 |
| (有)婦中衛生 | 代表取締役会長 | 数井 与三松 | 実研工業(株) | 代表取締役社長 | 水口 実 |
| (株)アムテック | 代表取締役社長 | 岩上 富二 | (株)高岡市衛生公社 | 代表取締役社長 | 島 小一 |
| 黒部クリーン(株) | 代表取締役社長 | 經 和夫 | (株)高岡市衛生公社 | 常務取締役 | 定塚 雄二郎 |
| (株)魚津清掃公社 | 代表取締役会長 | 廣瀬 敏雄 | (株)公生社 | 代表取締役会長 | 廣瀬 美津子 |
| ㈲福岡クリーンアルファ | 代表取締役社長 | 永原 恒夫 | | | |



【特別感謝状】

受賞者 中條忠雄氏
(前理事長)



【功労従業員表彰】84名



【日本環境保全協会より感謝状贈呈】



「中條忠雄氏の送別会」

◆世話人：世話人代表 上田勝朗

◆開催日：平成22年6月23日（水）

◆会場：ANAクラウンプラザホテル富山 4階「孔雀」

◆出席者：組合員21名・事務局1名

竹林 悟・上田和男・上田勝朗・廣瀬敏雄・廣瀬和夫・廣瀬 淳・数井勝己
針田正尚・原田義夫・金井武史・岩上富二・島 正己・島 小一・出村康夫
原野久夫・原野昭夫・嶋田仁司・中井宗義・中山 栄・長田聖真・藤永吉成
松田繁子（順不同）



開発委員会の方針

開発委員会 委員長 廣瀬 淳

平成22年度総会が終わり、改めて開発委員会を担当させていただくことになりました。6月7日に委員会を開催し本年度事業計画について協議いたしました。

開発委員会では研修会、出前県庁、施設見学の3つの事業を実施することにし、年間を通じて既存の業務や付帯する新規業務についての調査研究を行っていくことといたしました。

施設見学につきましては、業界としてのリサイクルへの取り組みを一層進めるため県内における最新のリサイクル施設の見学を行い、組合員各社が業務に活用していくかの検証を行います。

研修会は県および県浄化槽協会へ「出前県庁しごと談義」を依頼し農村下水道の推進や、浄化槽の将来についてのご講演をいただいた上で意見交換を行い、行政と共に今後の業のあり方を考える場したいと考えております。

また、事業委員会と合同でディスポーザー対応型浄化槽の普及状況についての講演・意見交換会を開催する予定です。市町村によっては、設置者にとって大きな利便性があると判断し条例を制定したうえ普及に対し積極的な対応を行っている地域もあるようですが反面、維持管理の為のコスト負担や思わぬトラブルの発生なども聞こえてきています。今後の動向について学び、組合員各社が対応を考える機会にしたいと思います。

上田新理事長体制のもと微力ではありますが、組合のネットワークを生かし組合員企業各社の社会貢献やお客様サービス向上への取り組みを強化し、共通する業務の効率的な受注体制の構築や、各社事業に付帯する新たな業務の研究・開発を進めてまいる所存です。

総務委員会 委員長 原田義夫

平成22年度、島専務理事のもと、竹林、数井両副委員長と総務委員会を担当させていただきました。

我々が携わる一般廃棄物は、言うまでもなく産業廃棄物と比較して市町村との関わりが深く、その対応次第では何十年と既得権のように関わってきた仕事でさえ同業他社の新規参入に脅かされることとなります。勿論、その市町村独自の事情も考慮して組合員各社がそれぞれ中長期の戦略で対応すべき面もありますが、当委員会としては、通常の委員会事業の遂行（下記）と同時に、組合員企業以外の動向情報の共有、或いは組合として市町村当局への関わることも重要な課題ではないかと考えます。本年度、上田新理事長の下、船出した新執行部を、特にそういう面で盛り立てていきたいと思っております。

<事業内容>

- ・環境タイムズとやまの発行
- ・第21回行政懇談会の開催
- ・新年祝賀会

総務委員そして組合員の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

事業委員会 委員長 長田聖真

前年度に引き続き、改めて事業委員会の委員長をさせていただきました。

第1回委員会を6月7日に開催し、事業計画について審議し、調査、講習会、施設見学の事業を実施することと致しました。

上田理事長新体制のもとで、委員会事業の充実に努力し、頑張っていきますので、会員の皆様方のご協力を宜しくお願い申し上げます。

【平成22年度事業計画】

- ①県内15市町村担当課の協力を得て、し尿収集・運搬料金調査表を作成。
- ②し尿収集運搬業務標準原価計算書について見直しをする。
- ③浄化槽メーカーによる、最新型の浄化槽の全般（清掃・管理）についての講習会開催。
- ④最新のリサイクル施設の見学。

「下水道整備に伴う一般廃棄物処理業等の合特法について」 廃棄物特別委員会 委員長 廣瀬和夫

私共、一般廃棄物処理業者（し尿収集運搬業者、浄化槽清掃業者、し尿及び浄化槽汚泥処分業者）は、市町村の委託及び許可業者として、地域住民の生活環境衛生の保全と廃棄物の適性処理に努めることを課せられた社会的責務と自覚し、日々、市町村の固有業務の一端を担い長きに亘り業務遂行して参りました。富山県の下水道処理人口普及率は、平成20年度末に77.0%（全国9位）となり、処理人口は、約84万8千人になりました。県では、平成14年度末に再点検が行われた「全県域下水道化新世紀構想」に基づき平成22年度までに汚水処理人口普及率を94%（国土交通省所管81%、その他13%）に引き上げることを目標にされており、積極的に下水道整備に取り組まれているところであります。これらの下水道の急速な整備等に伴い、私共一般廃棄物処理業者は、業務の縮小又は廃止を余儀なくされております。しかしながら、実際には事業の転換や廃止等が容易でない為、組合員各社は、深刻に現実的な損失や不安に脅かされており、死活問題に直面しております。

昭和50年5月23日、法律第31号として「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」（以下、合特法という。）が公布施行され支援措置が講じられる仕組みが設けられ、全国の多くの該当市町村は合理化事業計画を立案し、実施されているところであります。

当組合、廃棄物特別委員会では、各市町村に対して、合特法の完全適用実施（策定、運用）の要望を行い、合特法の適用に関しては、転換（代替）業務の提供による業務安定保持の措置、行政事情から必要充分な転換事業が実施されない場合は、資金上の措置として転廃交付金等による措置を求めていくところであります。

皆様方には、合特法制定の趣旨を改めてご理解いただきますようお願い申し上げます。

青年部会 会長 原野 誠

本年度より富山県環境保全協同組合、青年部会長を務めさせて頂くことになりました、有限会社クリーンアクト砺波の原野誠です。

本年度より8名の特別会員の方が各社代表者より認められ入会されました。諸先輩方が環境保全や本事業のため邁進されてこられた経緯を、しっかり受け継ぎ次代に残し、発展させていくためにも、我々若い力の結束が重要になります。今の時代に薄れてきている人と人の繋がりを強固なものにするため、6月24日に交流会を開催しました。上田理事長にもお忙しい中ご出席をお願いし、学び・笑いあるお話を頂きました。この場をお借りし改めて感謝御礼申し上げます。初参加や初顔合わせが多いこともあり、最初は戸惑いも見られましたが、上田理事長のざっくばらんなお話や、正会員の皆様の積極的な話しあげもあり、最後には全員が全員と話をし、盛り上がることができました。

私自身、正直不安もありましたが、特別会員の方々も非常に明るく、初開催にしては予想以上に満心一体となった感がありました。その後もその辯は本物で、当組合で集まる場があればそのメンバーが自然と集まり笑顔で話をすることができています。当たり前のように感じるかもしれません、なかなか出来ることではないかもしれません。今の青年部会の「ゆかいな仲間達」に出会えたことに心より感謝し、また会社間だけではない人としての辯をさらに深め、その若い結束力・発想力を本組合事業に活かし、先輩方や地域社会にお返しをしていきたいと考えております。

7月19日には第18回立山環境美化登山が開催され、晴天のもと57名もの参加者を頂きました。参加者全員が自然環境を守る大切さを改めて気づく場となりました。これはゴミを拾うことが目的ではなく、素晴らしい自然の中にもゴミが捨てられている現実を知り、身体を低くし自らの手で清掃活動を行う。そしてその気づき・感じたことを家族、会社、地域の方々に伝えていく。その活動によって一人でもゴミを捨てないように、ゴミを拾うようになれば、本事業が意味あるものになるのだと思います。このような活動は続いてこそ意味を成していくと思われますので、ぜひ来年のご参加を頂けますよう宜しくお願ひ致します。

青年部会は今後も北陸三県交流会・東京青年部会との交流を計画しており、仲間・同志を増やすことに重点を置いて参ります。多くの仲間が増えれば本組合の発展・事業の躍進進化に繋がると確信しております。

最後に、我々青年部会は学ぶ姿勢をもって取り組んで参りますので、どうか諸先輩方、各関係各所の皆様には時には厳しく、時には笑顔でご指導頂けますよう宜しくお願ひ申し上げます。

「ゴルフと環境保全について思うこと」

グリーン会 会長 島 小一

昭和61年5月18日に第1回大会が開催され、本年6月23日に第43回が行われました。長年活動されてきた諸先輩方のご苦労に対し、敬意を表すしだいあります。さて、この間日本の経済はおおむね順調に推移してきましたが、ここ数年大きな転換期を迎えることになりました。

それは、どの国でも同じように行政サービスが過剰になり多額の借金を抱えるようになってきました。その結果、国際の価額の暴落が人々の信用を失墜させ、国に対する信頼が著しく低下してきたことあります。ゴルフ場に関する話題を戻しますが、乱開発が行われた昭和50年代からはや20数年、今度は環境破壊がテーマになってまいりました。

思い返せば当時、ゴルフ場誘致は地元の農協や市町村は過疎解消、雇用機会の創出などの期待、ゴルフ場で使用される農薬や肥料が農協を通じて購入されることでの売上げ増加などで国の減反政策に泣かされて売上げが伸びない農協にとっては願ってもない収入源がありました。又、過疎に苦しむ山村や漁村にゴルフ場が出来れば市町村税で収入が増えます。この様な思惑から全国で1200件近いゴルフ場がオープンしていったのであります。しかし、ここにきて農薬の発ガン性の問題をはじめ水質汚濁、生態系の破壊など多くの環境問題が出てまいりました。たとえば、ゴルフ場の第一の条件は排水性の良さだといいますが雨が降っていてもゴルフは続けられます。集中豪雨でも止んだあとすぐに再開できることがゴルフ場のサービスだと考えられています。この排水性を確保するために、ゴルフ場の地下には縦横に配水管が埋設されています。この配水管の埋設設計がゴルフ場の基本設計の良し悪しを決定しています。ゴルフ場の排水性の良さは雨の放出を意味します。一般に、ゴルフ場の芝生は雨の水をたっぷり吸い込み緑豊かに自然が生きていると考えられるが、芝生に降った雨はすみやかに砂の中へ浸透し、配水管へ集中し、調整池に入ってしまいます。調整池は河川の洪水をふせぐために一時的に水量を調節するものでゴルフ場の芝生の保水性はほとんどありません。ゴルフ場下流の河川は農薬と化学肥料汚染に加えて上流での保水力の低下によって降雨時には今まで以上に増水し、洪水の危機にさらされ、逆に雨が降らないと下流の川は川原砂漠になりやすく平常時の水量は著しく低下します。

今何が問われているのでしょうか、共存の哲学です。

私もゴルフが好きで月2～3回はプレーしますが自然を相手にすることは気分も爽快になり明日への活力のエネルギーにもなっています。近年、この様にゴルフが一般市民の中に溶け込み老若男女楽しく過ごせるスポーツは他にありません。できるだけ環境に配慮したゴルフ場、減農薬から無農薬をめざしたゴルフ場、ホタルが飛びかうゴルフ場をめざさなくてはならないと思っております。環境保全の見地からも今一度原点に帰る必要があるのではないでしょうか。

「環境共生のまち高岡」を目指して

高岡市生活環境部長 寺嶋 哲

私たちのまち高岡は、越中文化発祥の地といわれています。

万葉集の歌人 大伴家持は、越中の國守として在任中、この地の大いなる自然とそこに営まれる人々の暮らしを歌題に、223首もの歌を詠み、今でも「越中万葉」として、多くの人々の心をとらえています。

家持の歌にもあるように、水と緑が織りなす美しく豊かな自然、長い歴史の中で培われた薰り高い伝統と文化は、高岡市が誇る貴重な財産であります。また本市は、先人の知恵と努力により、古くから商工業・ものづくりのまちとして、めざましい発展をとげてきました。

私たちは、この恵み豊かな環境を、次の世代に引き継ぐ責務があります。

しかし、今日では地球温暖化など複雑かつ広範囲に様々な問題が起きており、人類の生存基盤である地球環境が損なわれつつあります。

それらを解決するためには、社会経済活動や人々の生活様式を見直し、環境への負荷の少ない持続可能な社会への転換が必要となっています。

本市では、平成21年3月に「高岡市環境基本条例」を制定し、22年3月には「高岡市環境基本計画」を策定いたしました。

本計画では、目指す環境都市像を「健やかで 美しく 豊かな環境共生のまち」として掲げ、環境それぞれの分野に、具体的な環境目標、施策の方向や環境配慮指針などを盛り込みました。

★ 環境都市像

「水・みどり・人 光り輝く躍動のまち 高岡」

健やかで 美しく 豊かな環境共生のまち

★ 環境目標

I 健康で安心して暮らせるまち（生活環境）

良好な大気環境、水環境、地盤環境などの保全を図る施策を推進します。

II 水と緑豊かな自然を守り育てるまち（自然環境）

優れた自然景観、豊かな森林、貴重な動植物など自然環境の保全と活用を図る施策を推進します。

III うるおいのある快適なまち（快適環境）

水や緑の空間の整備、高岡らしい都市景観の形成、歴史や文化とのふれあいなど、まちの快適性を高める施策を推進します。

IV 地球環境への負荷の少ないまち（地球環境）

資源や廃棄物のリサイクル、エネルギーの効率的な利用や自然エネルギーの活用などにより、低炭素社会を目指す施策を推進します。

V 全ての環境目標を達成するための手段（環境学習・協働）

事業者・市民等による自主的な環境活動を促進するため、環境に関する啓発・環境学習・環境を意識した企業経営（環境経営）の普及を図る施策を推進します。

今後、本市では、この計画に基づき様々な施策や事業を、事業者や市民等の皆様と一緒にと一体となって、取り組んでいきたいと考えています。

このような中、循環型社会を目指し、資源や廃棄

物のリサイクルなどに取り組む富山県環境保全協同組合の皆様の役割は、極めて重要なものです。

この高岡が「環境共生のまち高岡」として、ますます発展していくように、今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「地球環境に想いを寄せて」

入善町住民環境課長 室 均

富山県東部入善町の田舎に住み、梅雨明け後の連日の猛暑に、つい夜風を求めて外に出ると夜空には満天の星、田んぼからは蛙の合唱が耳を突いて聞こえる。実にのどかな環境である。昨今の地球温暖化や絶滅危惧種などの自然環境に関わる話題に触ると、今後の地球の行末を案ずるのは私だけではあるまい。

さて、唐突ではあるが宇宙の誕生はビッグバンにより始まり、測定の方法の違いがあるにせよ120億年～140億年前とされている。また、太陽は50億年前、地球は46億年前の誕生と言われている。かの有名な物理学者アインシュタインは「宇宙に意思あり」と意味深いことを言っている。宇宙の構成は何のために行われたのか、疑問の残るロマンである。

今、地球全体が環境、経済、科学などあらゆる分野で危機的状況を呈している。「宇宙の意思」にはこのようなシナリオが本来的に存在しているのだろうか。

宇宙の果てまでの距離が137億光年であるなか、太陽と地球が同じ時間に存在し、相互の距離は絶妙な間隔を保ち、地球が焼け焦げることも凍り付くこともなく秩序を保って運行している。この奇跡的な連続に宇宙の神秘と「宇宙の意思」の絶対性を感じ得ずにはおられない。

絶妙な間隔がもたらした自然環境により、生命体が誕生し、後に万物の靈長として生物の頂点に立つ人間（ヒト）は、今より数百万年前に起源を発し、生きるために「欲」「知恵」「方法」を駆使し、現在へと繋がっている。これが可能となったのは紛れも無く自然環境に従順であり、地球自体の自然の仕組みに素直に従っていたからではないだろうか。

ここに地球環境を考えるとき、人間的思考では到底考えも及ばない超高次元の力を持って作られた宇宙であり地球でもあることを先ず念頭におきたい。この地球があってこそ我々の生存が許されていることに感謝と畏敬の念を忘れてはならない。また、地上文明の継続的な発展を求めるものであれば、自然界の仕組みと多種多様な生物との相互の役割を尊重し、文明発展による自然環境への負担を最小限に止めるべきであろう。さらに、温暖化の様な地球全域に影響を及ぼす問題は世界各国が同レベルの意識を保ち、地球規模の取組みを望むものであるが、施策によっては経済発展そのものに直接影響を与える懸念から、足並みが揃わない現状からも容易でない現実が窺える。

私たちはいかなる状況であろうとも「愛」持ってこれからも生きる人類へ最良の地球環境を引継ぐ義務と責任があるのでないか。

「忙しかったライオンズクラブのキャビネット事務局運営」

株黒東アメニティ公社 上田 和男

3年前、ライオンズクラブ国際協会334-D地区(富山・石川・福井)のガバナー(統治者・責任者)に入善LC所属の方が立候補され、2009~2010年のキャビネット事務局を私が入善LCが担当することになり、私がそのキャビネット幹事(ガバナー秘書兼事務局長)を引き受けることになりました。2008年9月に研修ということでシンガポールへ1週間、香港アジアフォーラム及び次期国際会長のセミナーに5日間、2009年1月の事務所設置してからは、仕事3割・ライオンズ活動7割という生活が始まり、勉強不足で何から手をつければいいのか分からなまま、キャビネット本番直前の2009年の7月1日からは、アメリカ・ミネアポリスへ、ガバナーになるためのエレクトセミナーに随行者として、また続いて開かれた国際大会に延べ11日間の滞在をしてまいりました。全世界のライオンズクラブの次期ガバナー約750名は次期国際会長から1年間のライオンズ活動方針・重点項目を学び、各地区へ帰ってその地域でどのような奉仕活動をやればいいのか、その基本方針を企画・実行するよう指示され、決意を新たにしてまいりました。今まで経験したことがない興奮した雰囲気を経験してきました。我が334-D地区(富山・石川・福井)は北陸環境保全協会と同じ地域で十数人のライオンズマンが地元のクラブで活躍しておられます。その北陸3県には、99クラブ・約4100名のクラブ員が地域に根ざした奉仕活動をしており、青少年育成・薬物乱用防止・ライオンズクエスト・環境保全・交通安全・献血・献腎・献臍・献眼等各クラブには「愛と心で汗の奉仕」のモットーで、伝統や素晴らしい奉仕活動の継承と協力をお願いし、そのまとめ役としてキャビネット事務局を運営してまいりました。

今年の5月に魚津市ありそドームにて約1700名の参加のもと地区年次大会を開催、6月には、名古屋市にて約3000人参加の334複合地区(愛知・三重・岐阜・長野・北陸3県)年次大会を盛大に開催しました。これらの準備・参加要請・連絡等がキャビネット事務局の仕事であります。また、6月27日から7日間のオーストラリア・シドニー国際大会に参加し、次期ガバナーの方々の就任を祝福、又国際役員の選挙も我々に与えられた任務であります。これらの行事をすべて消化し、次期キャビネット事務局の福井本丸LCに引き継ぎました。今は、残務整理で7月末までかかる予定ですが、安堵の気持と忙しかった時期を振り返り、少しさびしい気持ちが入り乱れている毎日です。



「環境問題の取組と私の好きな時代、私の好きなクルマ趣味」

クリーン産業株式会社 営業部次長 星名一宏

子供のころ気持ちよさそうに走っているスポーツカーがクルマの面白さを教えてくれた。そして、ハンドルを持っている男性の姿が、一生楽しめる趣味としてクルマ趣味の奥深さを感じるきっかけとなる。

60年代から70年代のクルマの魅力的な形、いつまでも見飽きない美しい曲線、スピードを感じさせるフォルム、微妙に変化するボディーカラーが流れ行く風までも想像させる、美しさの虜になった。

初めのころは、いろんなクルマに乗ってみたいという欲望から、18歳で免許を取り興味のあるクルマを次々と乗り回しクルマの魅力にドップリとはまった。ブランドの持つ伝統価値、レースのヒストリーから感じられるパワー、クルマのことをいろいろ知つてくるとエンブレムひとつ持つ魅力にも強く心惹かれることがある。それこそ知識の力、インテリジェンス溢れる趣味の醍醐味といえるだろう。

いくらクルマ趣味といっても結婚などの環境の変化により、子育てに対応ができるファミリーカーに余儀なく変更しなければならない時代もあり、又、最近は、ガソリンの高騰もあった。

ファミリーカーは、今までにない便利なクルマだが、趣味としてのクルマにはほど遠い存在であった。しかし、しかたなく乗り続けていた。ファミリーカーは、故障で止まることは無くパワーステアリング、エアコン、コンピューター制御システムなど快適なマシンへと進化した時代のクルマだった。子供達も手がかからず独立していく時代を迎えた頃は、地球上にやさしい低公害車の開発、普及の時代を迎えていた。自動車交通が原因となって窒素酸化物や粒子状物質などによる大気汚染が発生し、さらには、今世紀最大の地球環境問題の一つとされる地球温暖化を加速させているといわれている。

そうした状況の中でいま大いに注目されているのが、環境にやさしいエコカーの普及、環境への負荷が小さい自動車作りの技術開発です。これからは、街に環境にやさしいエコカーの走っている光景ばかり見られるようになるだろう。

私は、なにも反社会的なことを言いたいのではない、「私の好きな時代」クルマは美しさと速さを純粹に追求すればよかったと思っている。

同じティスト、目指すものが似たクルマになってしまいうことへの警戒を鳴らすことだけはしておきたい。移動の道具としてのクルマとは別に、クルマには私達にとって大切な趣味のアイテム、という役目があるはずなのだから。

又、クルマの歴史を眺めてみて一番輝いていた時代、それが一番幸せなことに「私の好きな時代、私の好きなクルマ趣味」とラップしている喜びがある。

現在、所有している70年代の2台のクルマも、遅くない時期に環境問題の取組みとして何らかの規制を受けることだろう。

旧き良き時代、国産車も面白かったし、輸入車も面白かった。クルマを趣味に持てたことに感謝しながら2台のクルマたちと環境社会の中でどのようにドライブングをしていくかを語りながらハンドルを握るだろう。



「青年部会員と特別会員との交流会」開催

- ◆日 時：平成22年6月24日（木）
- ◆会 場：名鉄トヤマホテル 2F 福寿林
- ◆出席人数：15名（上田理事長・会員6名・特別会員8名）

青年部会会則 第4条 特別会員（平成21年3月12日改正）

組合企業の代表者が認める従業員を特別会員と定めることができる。



新組合員の紹介（平成22年4月28日入会）



黒部クリーン株式会社
総務部 部長 山内 大輔 氏
(昭和58年9月1日生)

本年度より富山県環境保全協同組合に入会させて頂きました。

黒部クリーン株式会社 山内 大輔です。

簡単に自己紹介させて頂きます。

趣味はサッカー、ゴルフ（最近始めました）。最近感動した事はやはりWカップの日本代表の頑張りを見たときです。彼らの執念を見た時に自分も奮い立たされました。「気持ち」と言いますか「信念」や「執念」など心の部分がとても大事な事だと改めて感じたWカップでした。彼らのように強い気持ちを持って組合やこの業界を盛り上げていける男になれるように、日々精進してまいります。

年齢は26歳とまだまだ若輩者でございますが、組合を通し皆様と出会う事で自分を成長させて行きたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願ひいたします。

第18回 立山環境美化登山

開催日：平成22年7月19日(月) 海の日 快晴

開催場所：立山室堂周辺 参加人数：57名



第18回 立山環境美化登山

拾ったゴミの集計(344個)

| 数 | ゴミの種類 | 数 | ゴミの種類 |
|-----|-----------|-----|-----------|
| 49 | お菓子の包み紙 | 3 | ガム |
| 45 | 紙片 | 3 | ストロー |
| 25 | つまようじ | 3 | スナック菓子 |
| 22 | ビニールや袋の破片 | 3 | タバコのパッケージ |
| 21 | タバコの吸い殻 | 2 | ボタン |
| 21 | プラスチック類 | 2 | ティッシュペーパー |
| 20 | ガラスや陶器の破片 | 2 | ゴムひも |
| 20 | 食品包装用袋 | 1 | 衣服類 |
| 16 | 輪ゴム | 1 | 飲料用のビン |
| 13 | くぎやピン | 1 | 梅干の種 |
| 10 | 銀紙 | 1 | キャップ |
| 10 | ゴム片 | 1 | ゴミ袋 |
| 8 | 金属片 | 1 | 食品缶 |
| 8 | ビニールひも | 1 | 電池 |
| 7 | 空き缶のプルタブ | 1 | ペン |
| 6 | 布片 | 1 | あめ |
| 6 | 木片 | 1 | お菓子 |
| 4 | 紙パック | 1 | ハンカチ |
| 4 | 針金 | | |
| 合 計 | | 344 | |

お天気は、快晴、9時到着の立山室道の気温は11度と、とてもさわやかで気持ちの良い日でした。3連休最終日のせいか観光客の人数は少なく静かでした。



前日はすごい人出だったそうですが、残雪も多く一の越から室堂への帰り道の半分以上は雪の上を歩きました。花ちらほら咲いている程度でした。

ごみは、例年に比べ、室堂付近や地獄谷等の観光道には、ほとんど落ちていなくて、食事をしたと思われる場所や雄山山頂周辺に、お菓子袋の破片等が良く落ちていました。ごみは、小さいものが多く集めたごみ全部でもダンボール1個に充分入る量で、今回、特にごみに対するマナーが浸透していることを感じました。あるペン村に着くとあまりの暑さにびっくりでした。



画：上田勝朗氏